

# 学校法人愛知大学 第6次基本構想

計画期間:2026～2030年度

2026年4月 策定

# 1. はじめに

本学は、2026年、創立80周年を迎えます。この記念すべき年に、来たるべき100周年を見据え、「次世代への深化と飛躍」を謳い、新たなる中期計画である第6次基本構想を開始いたします。

1946年に、中部地区でいち早く人文科学系・社会科学系の高等教育機関として創立した本学は、法曹、行政、企業、教育、会計、研究など様々な分野に人材を輩出して参りました。近時は、人材育成力で全国1位の評価を得ております(\*)。同窓生は16万人を超え、同窓会のネットワークは、中部地区はもちろん、日本全国を網羅しています。

本学は、80年の歩みの結果、華々しい高みに至り、誇るべき確固たる地位を築いていると自負しております。

しかしながら、本学が目指すべき地に辿り着いているかと問われれば、「否」と答えなければなりません。建学の精神は、「世界文化と平和への貢献」を成し遂げよ、とします。この高邁な理想は、昨今の国際情勢に鑑みるに、完遂にほど遠いというほかありません。戦禍は収まらず、貧困・格差問題の解消も見通しは不透明です。本学が到達しなければならない地平は、まだまだ遙か彼方なのです。

大学業界を取り巻く環境は、近時大きく変化し、厳しさを増すばかりです。しかしながら、だからといって生き残りに汲々とし、本分をなおざりにするようであれば、未来はありません。

今こそ、歩みを止めてはなりません。むしろ加速させなければなりません。来るべき100周年に向けて、建学の精神を成し遂げるべく、次なる愛知大学を築き上げるために、これまでの取り組みをさらに深化させる。同時に、AIや地球環境問題への対応など、時代に適合すべく大胆な見直しも行い、飛躍を遂げる。次世代へ深化し飛躍するために、第6次基本構想を練り上げました。

さらには、次なる未来を担う若者たちのために、本学は深化し飛躍したいと考えております。

若者は、夢を抱くものです。若者が集う場所では、百花繚乱の夢が響き合い、さらに多彩な夢が紡ぎ出される。夢が輝けば輝くほど、未来は豊かになっていくでしょう。世界の新しい朝の光は、そうすることで訪れるはずで

世のあらゆる夢が集い、豊かな未来が作られる。愛知大学はそのような場所であり続けなければなりません。

「次世代への深化と飛躍」。教職員一同、覚悟を持って、第6次基本構想を推進して参ります。

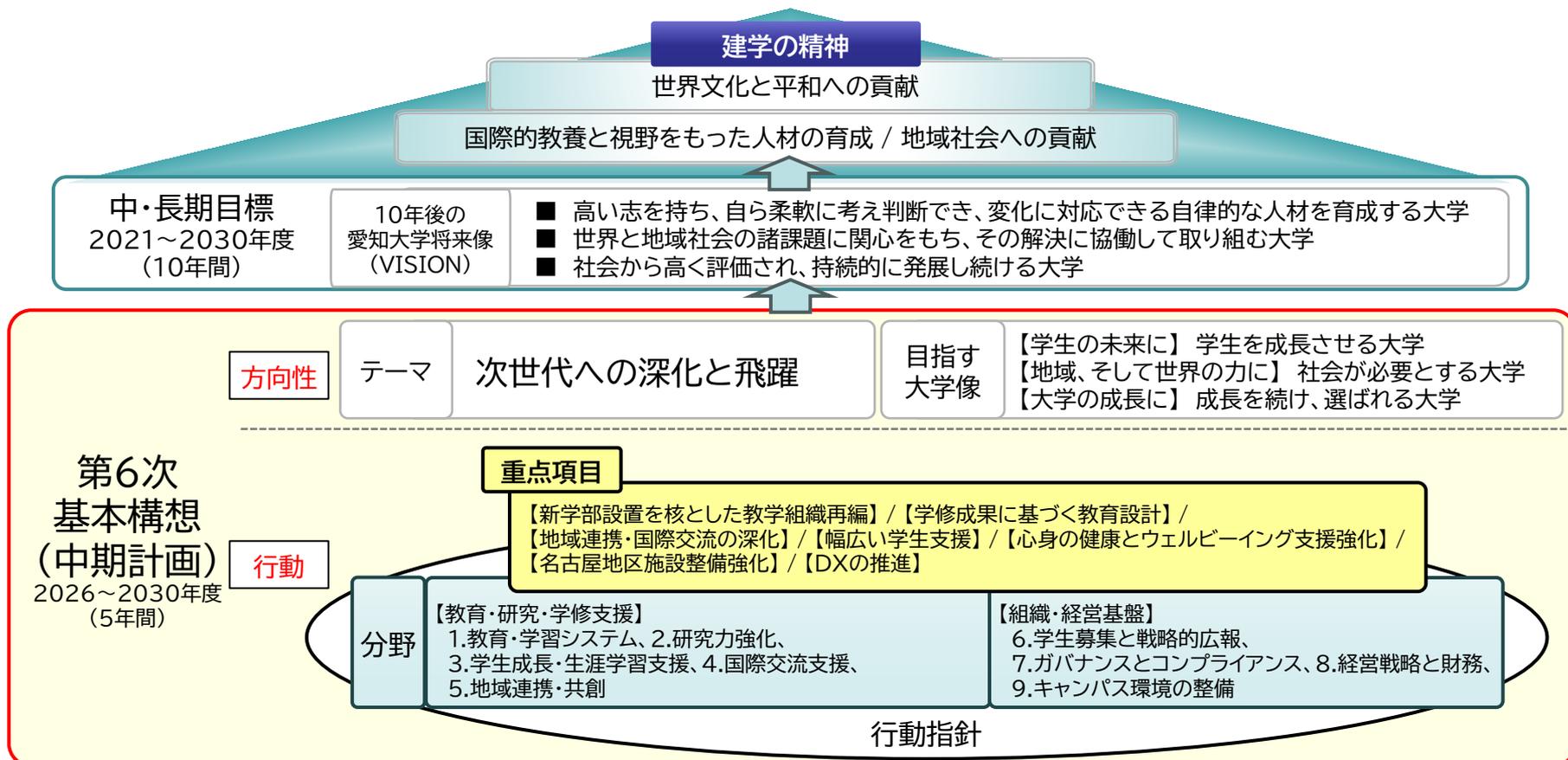
(\*) 日経HR『日経CAREERMAGAZINE特別編集 価値ある大学 就職力ランキング 2025-2026』(2025年6月)より。

学校法人愛知大学理事長  
愛知大学・愛知大学短期大学部学長  
広瀬 裕樹

## 2. 全体像

2021年度に策定した「10年後の愛知大学将来像(VISION)」の実現に向け、第5次基本構想では「4つの基本目標」を掲げ取り組み、成果を上げてきました。しかしながら、社会や環境の急速な変化により、大学の在り方や求められる役割は大きく転換しています。こうした変化を踏まえ、本学が社会に選ばれ続けるためには、これまでの成果を踏まえつつも、時代の先を見据えた戦略的なアップデートが不可欠です。

そこで、第6次基本構想では、引き続き本学の中・長期目標として「10年後の愛知大学将来像(VISION)」を維持しつつ、新たに「テーマ」と「目指す大学像」を設定しました。テーマは「次世代への深化と飛躍」。このテーマのもと、“学生を成長させる大学”、“社会が必要とする大学”、そして“成長を続け、選ばれる大学という目指すべき大学像を明確にし、その実現に向けた行動として、「重点項目」「分野」「具体的取組み」を策定しました。さらに、これらを確実かつ効率的に実行するため、全教職員が職種や立場を超えて共通して意識し、行動の基盤とする「行動指針」も設定しています。



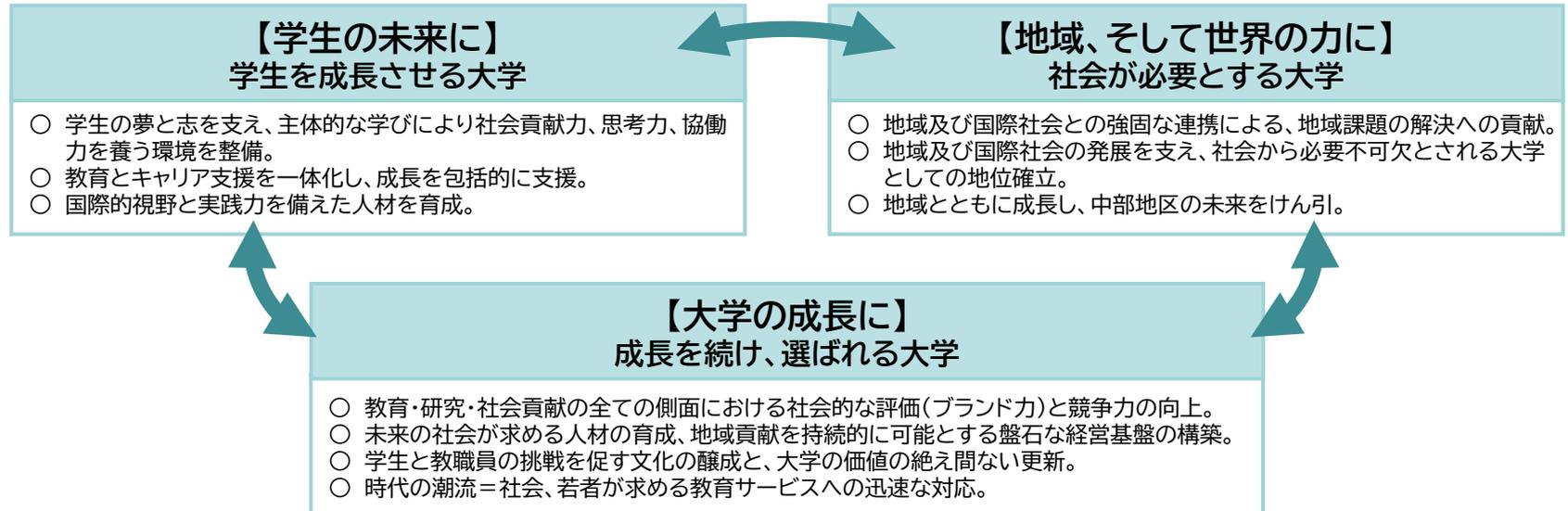
### 3. テーマ、目指す大学像

## 【テーマ】次世代への深化と飛躍

「次世代」 …目先ではなく、先を見据える姿勢。  
 「深化」 …本学の歴史と伝統、強みをさらに磨き上げる。  
 「飛躍」 …新たな挑戦へと進む決意。

- 創立80年の歴史に培われた挑戦の精神を基盤に、地域と世界をつなぐ大学としての使命を果たすことを表す。
- 確固たる伝統のもと、広い教養を身につけ、専門分野を究め、未来に羽ばたく翼を得る教育環境を整え、学生の成長と地域社会の発展を両輪として推進。

本学が目指すべき大学像として、「学生の未来に＝学生を成長させる大学」と「地域、そして世界の力に＝社会が必要とする大学」を掲げます。また、その2つが『大学の成長(価値・競争力向上)』に繋がることを目指します。これらが相互に作用し、持続的な成長のサイクルを形成します。



## 4. 区分と分野

本構想における取組みは、大学の根幹となる「教育・研究・学修支援」と、法人としての運営を担う「組織・経営基盤」の2つの区分で分類します。

この下に、法人及び大学の諸機能の網羅性を確保しつつ、戦略的な資源配分と実効性を高めることを目的として、9の分野に体系化します。これにより、それぞれの対象と役割を明確化し、構成員全員の理解を深めることで、計画の実効性を高めることを目指します。

※本構想に記載した事業は、期間中に特に注力し、成果の最大化を目指す取り組みです。(重点項目は次スライドに掲載)

なお、ここに記載のない事業についても積極的に推進し、大学運営基盤の維持・強化に取り組みます。

また、本構想が目指す大学像を実現し、そして次世代への「深化と飛躍」を達成することを目的として各分野の項目を確実且つ効率的に実行するため、全教職員が職種や立場を超えて共通して意識し、行動の基盤として常に念頭に置くべき【行動指針】を設定します。

区分	【教育・研究・学修支援】					【組織・経営基盤】			
テーマ	教育・研究・社会連携の深化と飛躍					経営・管理基盤の強靱化			
分野	1 教育・学習システム	2 研究力強化	3 学生成長・生涯学習支援	4 国際交流支援	5 地域連携・共創	6 学生募集と戦略的広報	7 ガバナンスとコンプラ イアンス	8 経営戦略と財務	9 キャンパス環境の整備



行動指針	「学生の成長のために」を、常に行動の起点とする	社会とのつながりを価値創出の原動力とする	エビデンスとDXに基づいた戦略的な運営を徹底する	使命を軸に、変化に強い持続性のある組織を構築する
------	-------------------------	----------------------	--------------------------	--------------------------

## 5. 重点項目

本構想では、「テーマ」と「目指す大学像」の実現に向け、分野ごとに具体的取組みを設定します。その中でも特に重点的に進める施策を「重点項目」として掲げ、関連する事業を総合的に推進することで構想の達成を目指します。さらに、行動指針を全学的な文化として定着させながら、持続的な変革を進めます。

重点項目	内容	関連する分野・取組み (P.7～8)
新学部設置を核とした教学組織再編	新領域新学部を中心とした教学組織再編。 社会や学生の要請にこたえる魅力ある教学内容の整備。	分野1①
学修成果に基づく教育設計	学修成果を基盤にした教育課程の再設計と質保証。 学生が成長を実感できる仕組みの構築。 学修者本位の教育手法の制度化。	分野1②③
地域連携・国際交流の深化	地域連携・国際化のさらなる深化。教育・研究成果の還元による大学の存在価値向上。	分野4①④、 分野5①④
幅広い学生支援	キャリア形成、課外活動、合理的配慮など、多様な学生が安心して学べる包括的な支援体制の構築。	分野3①④⑤
心身の健康とウェルビーイング支援強化	学生・教職員の身体的・精神的健康の包括的支援体制の構築。	分野3③
名古屋地区施設整備強化	名古屋キャンパスの機能強化。新棟整備を通じた教育・研究・交流の質と魅力の向上。	分野9①
DXの推進	全学DX推進。教学・経営・業務のデジタル変革による運営効率と情報ガバナンス強化。 教学IRと教育DXの連動。学修成果の可視化と個別最適化の推進。	分野1③、④ 分野7⑤

# 6. 具体的な取組み

区分	【教育・研究・学修支援】				
テーマ	教育・研究・社会連携の深化と飛躍				
分野	1. 教育・学習システム	2. 研究力強化	3. 学生成長・生涯学習支援	4. 国際交流支援	5. 地域連携・共創
目標	<p>教学組織の戦略的再構築を実行し、IR・DXを活用した教育システムを確立することで、教職員の資質能力向上を図り、学修者本位の教育の質保証を強化する。学修成果の可視化とフィードバックを制度化し、教学マネジメントの深化を通じて、学生の主体的学びを最大化する。</p>	<p>研究体制の強化を通じて研究力を高めるとともに、建学の精神に基づく知の創造を深化させる。研究成果の質と量の両面での向上を図り、大学の競争力を強化する。</p>	<p>体系的なキャリア支援と全世代型学習意識の涵養を通じて学生の主体性と成長を最大化するとともに、心身の健康を重視したキャンパスライフを支援する。</p>	<p>国際通用性の高い教育プログラムと多文化共生環境を提供し、国際的な学生の流動性を最大化する。</p>	<p>建学の精神に基づく地域社会との連携・貢献を戦略的に推進し、教育・研究資源の社会実装を加速する。社会連携活動を統合する組織の設置を核として、地域連携・共創に関する取組みを牽引し、地域・社会の課題解決と活力向上に貢献することで、「社会が必要とする大学」としての存在価値を高める。</p>
取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新領域を中核とした教学組織の再構築</li> <li>②学修者本位の教育手法の制度化と実装</li> <li>③学修成果の可視化とフィードバックの仕組み強化</li> <li>④教学IRの整備と教育DXの連動</li> <li>⑤アントレプレナーシップ教育の体系化</li> <li>⑥大学院改革とリカレント教育の拡充</li> <li>⑦多様なサーティフィケート制度の整備</li> <li>⑧教員FDの戦略的充実と教職員の資質能力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①重点分野への資源集中と研究力の強化</li> <li>②建学の精神に適った研究の重点的支援</li> <li>③研究体制の整備と研究支援機能及び制度の再編成</li> <li>④知的財産戦略と研究倫理の徹底</li> <li>⑤人文・社会科学系の研究基盤・研究環境を活かした研究の推進</li> <li>⑥新しい分野の研究促進及び支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キャリア支援の体系化と深化</li> <li>②リカレント・リスキリング支援の強化</li> <li>③心身の健康とウェルビーイング支援の強化</li> <li>④合理的配慮とインクルーシブな支援体制の確立</li> <li>⑤課外活動の充実と支援体制の強化</li> <li>⑥大学スポーツ・部活動の強化と選択的支援</li> <li>⑦ボランティア活動の推進と地域連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グローバル人材育成戦略の一体的推進</li> <li>②多文化共生キャンパス環境の整備</li> <li>③国際的な学生の流動性向上</li> <li>④教学組織・プログラムの戦略的再構築</li> <li>⑤国際化の制度・運営基盤の強化</li> <li>⑥外国人留学生寮を活用した国際交流の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会連携活動を統合する組織の設置と司令塔機能の確立</li> <li>②地域連携拠点の機能強化と未来志向の研究活動の深化</li> <li>③学術と実践の往還サイクルを核とした教育サイクルの確立（※教育・学習システムと連動）</li> <li>④地域課題解決型プロジェクトの戦略的推進と外部資源の獲得</li> <li>⑤全世代型連携基盤の確立とサテライト拠点の活用</li> <li>⑥同窓生ネットワークの戦略的活用</li> </ul>

## 6. 具体的な取組み

区分	【組織・経営基盤】			
テーマ	経営・管理基盤の強靱化			
分野	6.学生募集と戦略的広報	7.ガバナンスとコンプライアンス	8.経営戦略と財務	9.キャンパス環境の整備
目標	<p>本学独自の強みを可視化し、戦略的広報と入試改革を通じて、優秀かつ多様な学生を安定的に確保する。地域重点戦略と外的環境への対応を組み合わせ、持続可能な学生募集体制を構築する。</p>	<p>法制度の遵守と本学の歴史的成り立ちを踏まえた独自のガバナンス体制を確立し、リスク管理とDXを基盤に、教職員の能力向上と戦略的資源配分を通じて、組織の信頼性・透明性・効率性を保証する。</p>	<p>永続的な教育・研究活動を支える財務の健全性と安定性を確立するため、財政計画の継続的な見直しと収入源の多様化を推進し、戦略的資源配分と説明責任を両立させる。</p>	<p>学生の学びと研究を支える未来志向のキャンパス環境を整備する。</p>
取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①データ駆動型の入試活動と広報戦略の高度化</li> <li>②多様な選抜方法の充実と高大接続改革への対応</li> <li>③本学独自の強みの可視化・言語化による戦略的広報</li> <li>④大学全体の広報戦略とブランド価値の向上</li> <li>⑤地域重点戦略の展開</li> <li>⑥外的環境変化への対応と柔軟な募集戦略の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ガバナンス改革の推進</li> <li>②コンプライアンスとリスク管理の高度化</li> <li>③教職員能力の戦略的向上</li> <li>④外部機関による各種評価への対応体制の整備</li> <li>⑤全学DXと情報ガバナンスの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業ポートフォリオの再構築と資源配分の最適化</li> <li>②収入源の多様化と外部資金獲得の強化</li> <li>③新たな寄付の仕組みの整備と卒業生ネットワークの活用</li> <li>④財務運営の透明化と強靱化</li> <li>⑤経営・教学を含めた戦略立案機能の組織化</li> <li>⑥人事制度の改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①名古屋キャンパス新棟整備</li> <li>②学術情報基盤の整備</li> <li>③スマートキャンパス環境の整備</li> <li>④施設運営の効率化と環境配慮</li> <li>⑤災害に強いキャンパスを構築</li> <li>⑥安全・安心なキャンパス構築</li> </ul>